

退任にあたって

検定部 渡辺みどり

平成十九年春、検定部長を受けよとのこと。私などより適任の方がいらっしやる筈と何度もお断りしましたが、新支部長の「仕事は一人ではなくみんなやるんだよ」の言葉に身の程知らず

にもお引き受けいたしました。

果たして、始めの頃は各地区から受験数の報告が入り集計する度に、前年同期比が減になると、数字が頭から離れず食欲は無くなり眠れなくなりました。受験者数報告、合格者数報告ともに時間的制限があります。又、ときには変更の申し出もあります。できるだけ早く対応できるように、前後の数日は緊張の連続でした。

最終年度には思ってもみなかった病と、突然に大切な人との別れがありました。私の仕事の一番の理解者ですべてを手伝い、むしろ私より検定に詳しくなりました。辛くて悲しくてくじけそうになったとき、機会あることに私の体を心配して手紙をくださった先生、気遣いの言葉をかけてくださった先生、どれ程、支えとなり励まされたことか知れません。

私には検定部がありました。優しく素晴らしい部員の先生方がいつも側に居てくださいました。行き届かぬことばかりでしたが私にとって充実した六年間でした。ここに退任にあたりご協力とご指導くださった皆さまに心より感謝申し上げます。長い間、本当にお世話になりました。ありがとうございます。

平成二十四年度 珠算指導者講習会

「最近の子供の理解と対応」

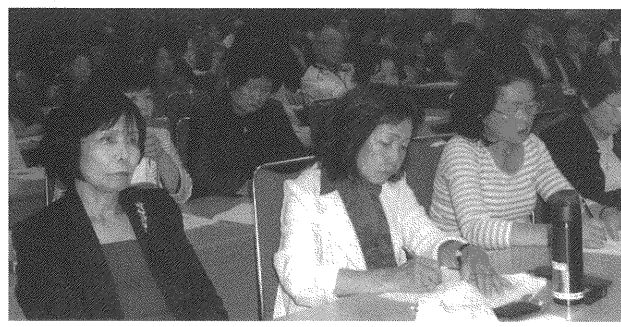
志太榛原地区 久保寺 波留恵

県の臨床心理士としての長い経験と教職員のカウンセラーまで、幅広いご研究のデーターを基に作成された小冊子に、スクリーンを使用しての講演は、時折混じる「藤枝弁」が面白い笑いを誘い、楽しい二時間となった。

◇怪文書

最近の子供達への対応は時に難しいものがある。問題集やノートを開いてみれば、ア

ニメのイラストから、メール特有の顔文字が堂々と並んでいる。小学生も高学年となると、お教室内では「好きな異性のニックネーム」が書き込まれ



た「怪文書？」なるものが、机下を廻り、時折「キヤー!! ホント!!? ホント!!?」と黄色い歓声があがる。こうなってくると制止の声は中々届かない。

◇きっかけ

家の前を通学している少女が「アスベルガー症候群」だと知ったのは、彼女の名札を拾ったのが「きっかけ」だった。名札を彼女のお家に届けた折、母親が教えてくれた。

「耳からの情報が理解しにくい為、視覚支援を必要とし、大きな声が苦手なので、穏やかに短く説明をしてほしい。」等々、彼女の支援方法を伺った。

この二年程、めっきり身長が伸び、女の子らしく成長してきている。が、ランドセルを背負って、少し前屈みに、そして小走りに歩く姿は変わらない。それでも、私の姿を見かけると、小さな声だが「おはようございます」と声をかけてくれる様になった。「いってらっしゃい」私も静かに言葉を返しながら小さく手を振る。

従来の指導者講習会とは、一味違っ